

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-88

部門名: 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名: 茨城県立日立市立助川中学校 萩原 知樹 平成30年 第6回 中堅教員研修
活動名: 目標を達成する研修の工夫 ～内容を可視化する研修を通して～	
解決すべき課題: 1 若手が多くなったことで、積極的な生徒指導のあり方について研修を行う必要がある。 2 数年間で職員の大部分が異動で入れ替わり、本校の取り組みである「生徒指導の三つの機能を生かした学級・授業づくり」のノウハウを継承する機会をもつ必要がある。 3 「生徒指導」を単なる「生徒にルールを徹底すること」と捉えている職員もいて、全校を挙げて統一した生徒指導ができていない 4 授業時数の確保等で、十分な校内研修の時間をとることが難しく、短い研修時間で効果がある研修のしかたを工夫する必要がある。	
目標・方針: ○ 定期的に短い時間で行うミニ研修を設け、学級・授業づくりの情報交換の時間とする。 ○ 学習のルールを生徒指導の機能を生かす視点でつくることで、職員が当事者意識をもって生徒の指導を行えるようにする。 ○ 研修の内容を可視化することで、課題意識をもって生徒に向き合う環境をつくる。	
活動内容: 本校課題研テーマ：生徒指導の機能を生かした学級づくり・授業づくり 1 校内研修のあり方の工夫 ・学校課題研修は基本的に月1回にロングの研修を行うが、それ以外に15分程度のミニ研修を他の研修の中に入れる。(図1) ロング研修(学校課題研) … 生徒指導の三つの機能を生かした学級・授業づくりについて ミニ研修①(職員会議) … 「課題研主任から」のコーナーで授業づくりの技術、ハイパーQUの分析方法等の研修を行う。 ミニ研修②(学年会) … 生徒の情報交換と今後の学級経営・授業の方針の決定 ミニ研修③(教科部会) … ハイパーQUの分析をもとにした効果的な授業展開についての研修 2 研修成果の「可視化」 (1) 思考ツールを使った「学習のルールづくり」 今年度のはじめのロング研修において「自己決定」、「自己有用感」、「共感的理解」という生徒指導の三つの機能の側面から「学習のルール」づくりを行った(写真1)。この研修では、生徒指導の機能を生かした授業を展開するためには、どのような事をルールとして設定していけば良いかを考えた。その際、フラワーマップ型の思考ツールを活用して考えを「可視化」した。この研修で活用したシートは職員室に掲示し、いつも職員の目に触られるようにした(写真2)。また、今回研修で活用した思考ツールについては、生徒にとって学習活動が主体的・対話的なものとなるために十分活用できるツールである。そこでロング研修で、職員が授業で積極的に活用できるように、さまざまな思考ツールの研修を行い、それらのツールの良いところを実感し、その後の授業づくりのヒントになるようにした(写真3)。 (2) 「QU分析シート」・「学級計画書」の作成・情報共有 本校では、年2回ハイパーQUを行っている。研修を通してその結果について各学級の様子や個別に支援する生徒について分析し、学級経営や授業の進め方の方針を決めるようにした(写真4)。これらをミニ研修の時間に「QU分析シート」として各学級で作成した。「QU分析シート」をもとにして、これからの学級・授業づくりの方針を「学級計画書」にまとめた(図2)。この「QU分析シート」と「学級計画書」は全クラス分をまとめて冊子にして職員全員が共有し、常に手元に研修の成果を「可視化」した。この資料は教科部会で学級の実態に合わせた学習形態や授業展開を考えるために活用した。	

活動の成果:

- ミニ研修を設けることにより、職員間で本校の学校課題研修のテーマである「生徒指導の三つの機能を生かした学級・授業づくり」について時間が多くもてた。
- 学習のルールづくりの研修成果を「可視化」することで、職員が統一したルールのもと授業を行うことができた。生徒にもルールが定着し、今年度6月実施の生徒用学校評価アンケート「授業にはルールがあり、クラス全員が守っている」の項目に「よく当てはまる」、「当てはまる」と肯定的に回答した生徒が昨年度12月(85.6%)から4.5%向上(90.1%)した(グラフ1)。
- QU分析シートと学級計画書を活用しやすい冊子状に「可視化」することで、学級の実態に合わせ授業が展開できたことにより、学び合いを意識した授業ができるようになった(グラフ2)。

アピールポイント(アイデアや工夫):

- ・ミニ研修の時間を定期的に設定し、すべきことを押さえて研修をすることで、職員の意識が高まり、効率よく成果を上げることができる。
- ・思考ツールで研修内容を可視化することで、研修テーマについて共通理解を高めることができる。
- ・学級の実態や個別に支援する生徒の実態を分析シートや学級計画書で可視化することで、授業や学級づくりで多くの職員が学級の実態に合わせた指導ができるようになる。

(図1)

月	日	曜日	研修名	形式	研修内容
3	水		職員会議	ミニ	今年度の研修テーマの確定
8	月		教科部会	ミニ	各教科ごとに授業の進め方等について課題の整理
18	木		職員会議	ミニ	ハイパーQUから分かることの研修
22	月		校内研修	ロング	影響を受ける生徒の実態の共通理解
7	月		学年会	ミニ	学級の生徒の様子や共通理解
14	火		職員会議	ミニ	学級のルールづくりの予告
20	月		学校課題研	ロング	学級のルールづくり
27	月		教科部会	ミニ	期末テストに向けて、1学期の成績についての共通理解
3	月		学校課題研	ロング	思考ツールについての研修
10	月		職員会議	ミニ	QU分析のしめたと学級計画書づくりの研修
17	月		学年会	ミニ	学級の課題分析と学級計画書に添削する生徒の分析
24	月		教科部会	ミニ	学級課題研の計画

(写真1)



(写真2)



(写真3)



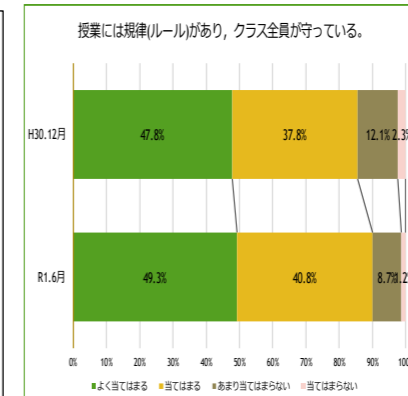
(写真4)



(図2)

学年	クラス	回答数	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
合計		66	72%			

(グラフ1)



(グラフ2)

